

思考力・判断力・表現力を高める指導の取組

英語科 津久井 貴 之

はじめに

標題に関わり、言語活動と家庭学習に視点を当てた取組や指導のポイントについて日頃の実践から整理し、報告した。本稿では実践報告の概要のみ記載する。特に下記2・3については、生徒の実態を捉え、学習者ニーズを踏まえた授業づくりに欠かせないステップだと考えているので、引き続き実践研究を進めていきたい。

1. 領域（技能）統合型の言語活動を成立させるための準備

1.1 backward designによる中長期的な指導計画

goalから逆算してCan-Doリストや年間指導計画を基に単元計画を作成することで

- ・「教えたばかりなのになぜできない」という教師の焦りから解放される。
- ・言語活動を中心とした授業になる（ならざるを得なくなる）。
- ・「主体的・対話的で深い学び」にチャレンジする時間的余裕が生まれ、長期休業や家庭学習での取組と連動したプロジェクト型・課題探究型の学習がしやすくなる

といったメリットが生まれる。この発想の転換なくして領域統合型の言語活動やCLILの手法を取り入れた単元計画は成立しない。

1.2 全レッスン・全セクション授業時間「等配分」型計画からの脱却

取り上げたい文法事項や扱われているトピックなどを考慮して私の場合は以下のように軽重付けを行っている。

単元の扱い	時間数のめやす	主な言語活動例
重	10～	・プレゼン、探究型学習、ディスカッションなど
軽	1～3	・ディクトグロス、簡単なペアワークなど
×	0	・家庭学習として要約や感想を書く、など

2. 日頃の授業や指導・支援の工夫

- ・日々の授業の教師と生徒の「やり取り」の質的量的充実
- ・「やり取り」を支えるコミュニケーション・ストラテジー指導
- ・ディスカッションに向けたスモールステップ（段階的支援）の充実

3. 自律的な英語学習習慣づくりのための家庭学習指導の工夫

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の育成に向けたラーニング・ストラテジー指導
- ・目標設定と振り返りの機会の設定と充実
- ・言語活動のpre-/post- activityとしての役割